

●キーワード：ごみ減量（容器包装ごみ、使い捨て箸、カップ、食べ残し、レジ袋、長持ち、修理、修繕、リメイク）

（事業名） お買い物のできるごみ減量行動～MY バッグ持参の一步先へ～

（団体名） 松原京極商店街振興組合

平成27年度 助成金額 948,778円 主な実施場所 松原京極商店街（新町通～大宮通）

事業目的・概要—商店街だからこそできるエコバッグの一步先行く 「eco チャレンジ」

歴史のある松原京極商店街では、昔の包装は「新聞紙でくるむだけ」「薄いナイロン袋に入れるだけ」「茶筒を持参し中身のお茶だけ買う」「量り売り」などが当然だった。小さな商店で、顔の見える関係であれば、店主とお客様の双方合意の下、ごみになる包装を減らすことができ、商店街だからこそできる先進事例を改めて示せるのではないかと考え、本事業をゼロから検討した。

買い物袋（MY バッグ、エコバッグ）の持参については、10月のしまつのころ条例によって、スーパーでは加速的に促進されているようだが、商店では、これまでの慣例に従っているのが実情である。そこで、あえてエコバッグのその一步先を商店街から提示することにした。商店街らしく、割引や金券などで呼びかけをし、お客様が楽しみながらごみ減量行動にせるよう工夫した。

商店街には、多種多様な業種が入っているため、横並びでの取り組みは困難であったが、各店舗ができる「容器包装ごみ等の減量」「物を長く大切に使う」「食べ物を粗末にしない」でキャンペーンに臨み、商店街全体の催しではMY カップ、MY 箸持参を呼びかけ、これまでにないことに取組んだ。



移

取組内容—恒例行事や告知媒体に抱き合わせる形で、

エコを広く長く多く発信！

○ MY バッグ持参強化ウィーク（8月3日～8日 七夕まつり）

商店街の七夕祭りを利用し、MY バッグ持参でスタンプがたまり小判型のクーポンがもらえるキャンペーンを行った。MY バッグ持参は、未だ一部の人が取組んでいるのが実情と考え、まずはMY バッグの持参を促した。また参加店舗の目印に空き店舗の不要な襖を活かし作成した行灯を設置し、ごみが少なかった時代から学ぶ姿勢を示した。



○ ごみ減量クイズとMY カップ持参促進（9月4～6日夏祭り）

夏祭りでは、商店街にゆかりのある義経・弁慶が登場する2R劇を開催、途中ごみ減量クイズを出して盛り上げた。後日、特売チラシに同じクイズを掲載し、定着を図った。また、My カップ、My 箸の持参を呼びかけ、ビールはMY カップ持参の人のみ100円引き、お茶は100円引き。これまでは紙パックのジュースの販売をしていたが、ごみになるため、カップに入れるお茶にした。エコを意識して、照明は控えめにし、代わりに行灯を用いて雰囲気を出した。また、ライブ演奏もアンプやマイク



なしのアコースティックに挑戦し、夏祭り全体のエコ化に大きく踏み切った。

○ お買い物でごみ減量キャンペーン(11月2日～30日)の開催

買い物時のごみ減量行動に対し、スタンプを発行し、商店街内での買い物に利用できるクーポンを発行するキャンペーンを行った。

キャンペーン参加店で、割箸の添付を断る、容器包装を断る等の発生抑制行動や、ごみ減量イベントに参加すると、難易度に合わせて決められた個数のスタンプが押され、スタンプが全て押されたら小判型のクーポンに引き換えてもらうことができる。

他にも、商店街店主向けのごみ減量学習会を2回開催し、売り手側の意識改革につなげたり、こども向けの行灯作成のワークショップを開催したりした。

成果—思いがけない成果に、背中を押されて活動が進んでいく。

●夏祭りの生ビールMYカップ持参がのべ66名！

夏祭りでは、「生ビール300円をMYカップ持参の場合100円引きで200円」とした。事前の告知が響いたのか、土砂降りの中、多くの方がMYカップを持って来場した。100杯近くのビールが出た中で、66杯がMYカップ。使い捨てのプラカップの方も、2杯目は同じカップを使われていた。

ヒアリングで「MYカップ持参の理由」を聞くと、10組全員が「エコもあるが、100円引きがよかった」と答えた。中には「元値を400円にしてもいい！」という声や「普段は商店街で買い物をしないがビールが好きで今回参加した」という声もあった。

●キャンペーンを通じて新規のお客さんが！思っていた以上にお客さんが容器持参などの行動を！

商店街では、何に取り組むのにも商店街の活性化につながることを期待しています。今回のプロジェクトで、商店街としてうれしい成果は、初めてのお客様がお買い物に来てくださったことです。商店街の中にあるデザイン会社 iroiro さんが作ってくれたステキなチラシを近隣に6000枚配布した結果、容器を持ってお買い物に来てくださいました。期間中概算でのべ420名がマイバッグを持参し、のべ230名が割箸を不要としたり、裸売りのものを購入しました。また、のべ67名が容器を持参して買い物をするなど、ハードルが高いと考えられていた「ごみ減量のお買い物」に挑戦してくださいました。

●取材

今回の取り組みで、3人の方から取材を受けた。このことで、本プロジェクトについてより自覚的になり、客観的にも捉えることができた。また、商店街活性化にもつながる傾向として、店主たちも前向きに本プロジェクトを遂行することができた。

●一番学び、変化したのは自分たち

今回の助成事業をきっかけに、「どうしたらエコになるか」を常に考えることになった。ごみ減量についても専門家から学ぶことができ、これまでは「サービスだから絶対必要」と考えていたことも、エコの観点から

エコな買い物に金券 京都・松原京極商店街、楽しんでごみ減量

[印刷用画面を開く](#)



容器を持参して量り売りの味噌を買いに来た客(左)＝京都市下京区・井上漬物店

買い物袋持参でレジ袋を使わないなど店舗ごとが設けたエコに関する条件に沿った買い物をすると特典を得られる企画「エコチャレンジスタンプラリー」が、京都市下京区の松原京極商店街で実施されている。店と消費者が互いに意識を高めることで、ごみ減量を目指す。

同商店街は今年、夏祭りのマイカップ割りなどエコをテーマに活動してきた。今回は、広く浸透してきたエコバッグよりも一歩先を行く

取り組みをしようと、11月2～30日に行っている。

松原通(大宮通～新町通)にある同商店街の飲食店や食料品店など21店舗が参加する。エコな買い物や店の利用で専用の用紙にスタンプを押してもらえ、10個たまれば200円分の金券(先着250枚)に交換できる。レジ袋不要はスタンプ1個、割り箸不要は2個、容器を持参のみを購入すれば4個など、難易度ごとにスタンプ数は異なる。

客からは「楽しみながら買い物ができる」と好意的な声が聞かれた。商店街によると、容器持参について30、40代の客から「そういう買い方も良かったのか」と昔ながらの買い物を見直す意見もあったという。

井上昌則理事長(34)は「これまではレジ袋を渡さないサービス不足なのではなどと考え、店側が消極的な面もあった。意識が変わってきたのを実感している」と話している。

【2015年11月25日 11時54分】

見直す場面が増え、お客さんからの合意があれば徐々に変えていきたい。また、古くからのお客さんで、エコなお買い物をしていてくれる方がいることも改めて意識することができた。

一方で、商店街の一般会員と理事の間に、理解の差があることは否めない。今後、商店街全体として足並みを揃えて取り組みを進められるよう、横の共有に工夫を凝らす必要がある。

松原京極商店街振興組合

【代表者】 理事長 井上昌則 【主な活動地域】 松原京極商店街

【ウェブサイト】 <http://matsubarakyogoku.web.fc2.com/>

【設立の目的】

本組合は組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行なうとともに、地区内の環境の整備改善をはかるための事業を行うことにより、組合員の事業の健全な発展に寄与し、あわせて公共の福祉の増進に資することを目的とする。

【主な活動の内容】

- 雑がみ回収（月3回）
- 333サービス売り出し広告の発行（3がつく日）
- 季節に応じた行事（七夕祭り、夏祭り、歳末大売出等）

文中に掲載する関連図表等